

CWA NEWS



特集 県内各地域に広がるウィスコンシン州との交流(1)

1990年に千葉県とウィスコンシン州との間で始まった姉妹交流が今、県内各地域で市民レベルの交流として広がりを見せています。そこで、本号からその様子を紹介します。

<CWAが仲立ちして実現した小学校間交流>

3月にアメリカの小学校から手紙や写真が届きました

去る3月11日に発生した東日本大震災は東北をはじめとする東日本の各地に多くの被害をもたらしました。その情報は瞬間に世界を駆け巡り世界から多くの支援や励ましのメッセージが日本に寄せられています。そうした中、遥か1万キロメートル離れたウィスコンシン州ヴェローナ市のCountry View Elementary Schoolから、千葉市立西小仲台小学校へ85通の激ましの手紙やカードが届けられました。

手紙には、「学校で、東日本の大地震と津波のことを教わりました」、「沢山の家が流され、沢山の人が亡くなったと聞きました」、「大丈夫ですか？大変心配しています」、「何か困ったことはありませんか？役に立ちたいです」、「僕たちは友だちだから、米国はなんでも支援すると思います」、「家族で亡くなった方はいませんか？皆さんの無事を祈ります」などのメッセージが書かれていました。

ここに至った経緯

ここに至るまでにはCWA運営委員でもある西小仲台小学校の小川校長の学校間交流への熱い思いがあり、昨年9月の姉妹交流20周年友好使節団の派遣に際し、その思いが事務局に託されました。事務局ではこれまで培った人脈を活かし、ウィスコンシン州内のある小学校長にその思いを伝えることが出来ました。それがCountry View Elementary Schoolだったのでした。しかし、先方から3年生同士で交流したいと提案はあったものの、その後の進展はなく、小川校長は再三メールを送り、今年1月には小学校3年生の書いた書初めを送りました。そして、ウィスコンシン州側の働きかけや東日本大震災がきっかけとなって、3月21日にミシェル校長から学校宛にメールが届きました。そこには、震災へのお見舞いや支援と併せて2月4日に開催された「アジアの祭り」の様子が、会場に掲示された書初めや日本に滞在したことのある3年生の担任が和食を振る舞っている姿の写真を添えて紹介されていました。それは、待ちに待った学校間交流の始まりでした。その後、3年生の担任からもメールがあり、震災について教師も児童も心配していて、子どもたちが手紙を送ることを知らせてきたのです。



「アジアの祭り」の会場で書初めを展示

いま、そして今後



「アジアの祭り」の会場で和食を振る舞う

早速校長室前に、送られてきたお見舞いの手紙やカードを日本語で要約したもの、「アジアの祭り」の様子を映した写真、北アメリカ大陸の地図などを掲示したところ、ご覧になった保護者から交流のお手伝いをしたいという申し出もありました。今、西小仲台小学校では、自分の思いを英語で伝えることができない課題をどう解決するか、更に今後、どんな内容で本校の様子を先方に伝えるか等々、3年生の担任に子どもたちと一緒に考えてもらっているそうです。小川校長としては、この学校間交流を進めることで、子どもたちに豊かなグローバルコミュニケーション力を身につけてほしいと願っているとのこと。今後、西小仲台小学校とCountry View Elementary Schoolとの学校間交流が、「民間レベルの交流」として拡がり、本県とウィスコンシン州の人々との絆が、さらに深まることを期待したいと思います。

＜鴨川市とマニトワック市の姉妹交流＞

鴨川市が、国際姉妹都市の推進を掲げて交流の相手に選んだマニトワック市は、人口が鴨川市とほぼ同じ約3万4千人、面積は48平方キロメートル、ウィスコンシン州の東部にあり、ミシガン湖西岸に位置する美しいリゾート地です。

両市が姉妹都市提携を結んだのは、平成5年（1993年）11月8日。翌年5月には、民間による草の根交流の推進母体として「鴨川市国際交流協会」が設立され、以来、両市の交流事業をはじめ、市民による国際化・国際交流が大きく前進することとなりました。

どのような交流が行われているの？

●姉妹都市交流の重要な柱は教育交流です。市では、夏休みを利用し、まずマニトワック市の高校生6人が鴨川市を訪れ、10日間のホームステイを行い、その高校生と同じ飛行機で鴨川市の中学・高校生6人がマニトワック市を訪問するという「鴨川市青少年海外派遣事業」を実施しています。鴨川市国際交流協会の担当者は、「マニトワック市で10日間のプログラムを過ごして帰国した子どもたちは、シャイな子ども人が変わったように自信を持ち、質問にはきはきと答えるなど、その成長ぶりにだれもが驚かされます。」と感想を語ってくれました。また、派遣経験者の中には、アメリカの大学に留学する学生もおり、マニトワックからは、東京の大学に留学したり、鴨川市近隣市町村のALTになったりと、事業の成果はここにも表れています。更に、小学生対象の絵画作品交換事業や中学生対象のペンパルクラブ事業も継続して行われており、子どもたちの国際化は着実に実を結んでいます。



マニトワック市の高校生が日本のいろりを初体験

ディズニーランドなどで演奏。鴨川市市民会館での鴨川少年少女合唱団とのジョイントコンサートをきっかけに交流が始まり、翌年（1996年）には、同合唱団がマニトワックでの演奏旅行を、さらに平成10年のマニトワック少年少女合唱団の鴨川公演、平成13年に鴨川少年少女合奏団のマニトワック訪問へと繋がっています。

●「市民友好の翼」派遣事業は、市民と協会員がマニトワックを訪問し、市庁舎前での歓迎式典や小学校での公式行事、パーティーなどを通じて交流を深めるというもので、昨年（2010年）は、10月に総勢26人がマニトワック市を訪問しました。初めてのホームステイ先で、手放しのWelcomeに感動する人、日本語の教科書を使っている小学校に驚くなど、市民レベルでも心の距離は確実に近づいています。

●音楽交流では、平成7年（1995年）6月にレイクショア・ウィンドアンサンブルが来日し、鴨川市市民会館をはじめ、東京



日本語で絵本を読み聞かせをする「市民友好の翼」団員

東日本大震災からの復興に向けて

●東日本大震災から間もない3月16日の朝に、ジャスティン・ニコルズ市長から、電話で「震災の被害の状況に心を痛めている」とのお見舞いのメッセージが片桐市長の元に届きました。また、昨年マニトワック市を訪問している片桐市長は、ニコルズ市長と5月18日にスカイプを使ったテレビ会談を行い、今夏の中高生の派遣やマニトワック市民訪問団の来日延期について話し合いが行われました。



メライナさん(写真左)とペイトンさん

●また、大震災の被害に苦しむ日本人を勇気づけようと、マニトワック市の中学・高校生が折った千羽鶴が、鴨川青年の家に避難している被災者の元に片桐市長の手で届けられました。発案者はメライナさんとペイトンさんと、ともにマニトワック市の中学生。お母さんが日本人であるメライナさんは、小さいころから日本文化に親しんでおり、「千羽鶴は病気や困難の克服の象徴」といっていたお母さんの言葉を思い出し、仲間とともに千羽鶴を送ろうと思い立ったそうです。

平成5年に始まった鴨川市とマニトワック市の姉妹交流は、17年を経て、今回の大震災という困難にも負けず力強く歩み続けています。前マニトワック市長のケビン・クロフォード氏がウィスコンシン千葉委員会の委員長に就任されたことにより、ウィスコンシン州との絆も更に深まることでしょう。

行ってみよう ウィスコンシン州 vol.2(スポーツ編)

米国ではスポーツとして、アメリカンフットボール、野球、バスケットボールの人气が高く、ウィスコンシン州内にも注目のチームがあります。今回は、これらのチームとその関係施設を紹介します。

1 アメリカンフットボール

ウィスコンシン州グリーンベイには、全米プロフットボールリーグ（NFL）の名門「グリーンベイ・パッカーズ」があり、その本拠地はランボー・フィールドです。

「パッカーズ」は1921年創設の全米で3番目に古いチームで、100%の株式を市民が保有する地域に根づいた強豪チームです。本年2月に行われたスーパーボールに勝利し4度目の全米一に輝きました。地元ファンは献身的、熱狂的で知られ、シーズンチケットのキャンセル待ちはプロスポーツの中で最も多い65,000人以上で、チケット入手の待ち時間はおよそ35年だそうです。会場では「チーズヘッド」を被った応援や、選手が観客席に飛び込む「ランボー・リープ」など熱狂的パフォーマンスで場を盛り上げます。

ランボー・フィールドの向かいにはパッカーズ・ホール・オブ・フェイムという年中営業の施設があり、パッカーズにまつわる様々な品々が展示、販売されています。

また、大学フットボールとしては、ウィスコンシン大学のフットボールチーム「バッジャーズ」（州の動物であるアナグマの意味）がなじみのチームです。米国中西部のビッグ・テン・カンファレンスに属し、昨年度はAPランキングにおいて全米第4位になりました。今年の元旦にはローズボウルという伝統ある試合に出場しましたが、テキサスクリスチャン大学に対し21対19とわずかに2点差で敗れました。

その本拠地はマディソンにあるキャンプ・ランドール・スタジアムで、南北戦争時の野営地に建設されたものです。収容人数は80,321人で全米有数の収容を誇り、試合ではスタジアム全体がチームカラーである赤で染まります。



熱狂的なパッカーズファン

2 野球

ウィスコンシン州には、全米大リーグ（MLB）の球団として「ミルウォーキー・ブルワーズ」があり、その本拠地はミラー・パークです。チーム名の「ブルワー」はビール醸造者を意味しますが、本拠地名の「ミラー」も地元創業のビール会社です。この球場は、世界4番目の開閉式屋根付き天然芝の球場で、ホームランが出ると外野スタンドに設置された滑り台からマスコット「バーニー・ブルワー」が登場したり、着ぐるみによる「ソーセージ・レース」や「ピア・バレル・ポルカ」の合唱が行われるなど、ユニークな応援が繰り広げられます。チームは地区の上位をうかがう実力ですが、ここ数年優勝から遠ざかっています（7月10日のシーズン前半終了時点で、ナショナルリーグ中部地区の首位です）。



ブルワーズの本拠地「ミラーパーク」

現在、齊藤隆やプリンス・フィルダー（阪神でプレイしたセシル・フィルダーの息子で、大リーグを代表するホームラン打者）がプレイするほか、以前には江夏豊や野茂英雄が所属するなど、日本人にもなじみ深いチームです。

1～3Pに出てきた地名の場所



3 バスケットボール

米国ではプロバスケットボールも、その迫力あるプレーから大変な人気です。全米プロバスケットボール協会（NBA）に属する州内のチームとしては「ミルウォーキー・バックス」があります。チーム名「バックス」とは一帯に棲息する牡鹿のことで公募により命名されました。本拠地はミルウォーキーにある、州所有のブラッドリー・センターです。

チームは1971年に1度全米一になっていますが、近年はやや低迷気味です。バスケットボールシーズンは10月から4月までで、試合数も比較的多く、球場内は暖かいことから、冬に当地を訪問する場合には絶好のスポットと言えます。

(参考) ウィキペディア など

ウィスコンシン州から千葉県に熱いメッセージが届きました ～日本救援プロジェクト～

去る3月11日の東日本大震災の発生後、世界から日本に対し多くの支援が寄せられました。ウィスコンシン州からは、早速スコット・ウォーカー州知事から大震災があった当日付で次のようなメッセージが千葉県知事に届きました。

「昨日日本を巨大地震と津波が襲ったことを知りとても驚きました。日本の人々、特に千葉県の友人及び行政に対し心から哀悼の意を表します。両地域の絆は強いものです。我々はこの惨事を克服するために姉妹県である千葉県を支援したいと思っています」

そして、3月31日知事夫人（トゥーネット・ウォーカーさん）とWisconsin-Chiba Inc.（ウィスコンシン千葉委員会）が共同で日本救援プロジェクトを立ち上げました。知事夫人は、プレスリリースの中で、その動機を「ウィスコンシン州の姉妹県である千葉県が災害に遭ったのを知り、行動を起こさずにはいられなかった」と語っています。

このプロジェクトはホームページ上で日本救援のロゴをあしらった商品を販売し、売り上げの30%を日本赤十字社に寄付するものですが、ウィスコンシン千葉委員会のケビン・クロフォード委員長は、そのロゴについて、同じくプレスリリースで、「いろいろ考えた末、日本人の救援活動に対するウィスコンシン州の支援を象徴するロゴを生み出した」と言っています。

20年来の姉妹交流の積み重ねが今回の救援活動につながったものであり、今後とも良きパートナーとしてウィスコンシン州と幅広い交流活動を展開することの意義を改めて感じさせられました。

なお、千葉県知事からウォーカー州知事に対し感謝の手紙を差し上げたところですが、その中で知事は、「我が国が被害を受け、苦しんでいる最中に、友達がこの惨事を克服するため、救いの手を差し延べて続けています。これにより、日本や我々の友情も、一層強固になっていくことでしょう」と述べられています。

<プロジェクトの内容>

<http://www.WisconsinSupportsJapan.com>ホームページ上で、日本救援のロゴをあしらった、Tシャツ、水筒、コーヒーマグ、幼児服等を販売し、その売り上げの30%を日本赤十字社に寄付する。

WISCONSIN
JAPAN 友好 RELIEF



Press Release

Media Contact: Annie M. Nolan
Phone: (608) 333-4076

FOR IMMEDIATE RELEASE
March 31, 2011

FIRST LADY TONETTE WALKER ANNOUNCES FUNDRAISING EFFORT FOR JAPAN

Wisconsin-Chiba, Inc. and the First Lady partner to raise money for the Japanese Red Cross

MADISON, WI, MARCH 31, 2011: First Lady Tonette Walker and the sister-state organization Wisconsin-Chiba, Inc. announced today the *Wisconsin-Chiba Japan Relief Project*, organized to raise money for Japanese relief efforts, on behalf of the people of Wisconsin.

"The recent devastation of the earthquake and related tsunami has been deeply painful to observe," said the First Lady. "When I learned that Wisconsin's sister-state Chiba had been affected by the disaster, I couldn't help but be moved to action."

Since 1990, Wisconsin has shared a warm sister-state friendship with Chiba, Japan. Wisconsin-Chiba, Inc., the sister-state organization, and the First Lady, who is serving as Honorary Chairwoman of the *Wisconsin-Chiba Japan Relief Project*, have collaborated to create a Wisconsin-specific fundraising project, represented by a unique logo, to join in the support for the Japan relief effort.

"With much thought, we have developed a beautiful and culturally sensitive logo to represent Wisconsin's support for the Japanese relief effort. The two *kanji* symbols together form a compound word meaning friendship and are symbolically positioned to show Wisconsin's support of the Rising Sun," said Kevin Crawford, President of Wisconsin-Chiba, Inc. "We think the artwork does a great job of visually telling the story of Wisconsin's care for our Japanese friends who are suffering in so many ways."

※プレスリリースの抜粋

平成23年度交流会 ～昨年の派遣時の思いが楽しく語られました～



赤田副会長 バッパカ獅子舞 中里喜楽会

6月4日(土)の定期総会終了後、約40名が参加し交流会を行いました。赤田晴副会長(千葉日報社社長)の挨拶後、昨年千葉県友好使節団としてウイスコンシン州へ派遣された各グループ等から画像や映像を用いた報告がありました。

まず、「文化・芸術グループ」(野田市の「バッパカ獅子舞保存会」と「中里喜楽会」)からは、歓迎会、ポットラックピクニック、高校や小学校での公演の様子などを画像や映像で紹介した後、参加者から「英語が心配だったが気持ちはつながった」、「1週間があつという間だった」、「日本の民俗芸能を意欲的に学ぼうとしていた」、「これまでの交流の積み重ねのおかげで親戚同様のつきあいが出来た」、「60歳にして勉強になる体験だった」との報告がありました。

次に、「女性のつばさグループ」からは、保育園、ホスピスレジデンス、高齢者用マンションを視察する様子や、ホストファミリー、ミルウォーキー美術館の様子などを画像で紹介した後、「視察先でドネイションという言葉は何回も聞いた。皆の力で社会が成り立っていることがよく分かった」、「ウイスコンシン州にはかつての日本が持っていた真の豊かさがあり、その暖かい気持に感動した」、「アメリカには経済面だけではなく、子供達、高齢者へのきめ細かな心配りがあり豊かさを感じた」との報告がありました。

次に、「バイオマスグループ」からは、バイオメタノール研究センター、下水処理施設の様子などを画像で紹介した後、「州政府のエネルギー関係部局との情報交換や企業・研究機関の視察を通じて勉強もし、充実したものとなった」との報告がありました。

また、東日本大震災時には、派遣された皆さんにホームステイでお世話になったウイスコンシン州の方からお見舞いのメールが届き、胸を熱くしたとのお話がありました。



女性のつばさ

バイオマス



小川校長

梶原社長

続いて、小川校長から千葉市立西小仲台小学校とCountry View Elementary Schoolとの交流がスタートしたことについて、画像を用いながら報告がありました。

最後に、新たに賛助会員となった(株)ASPEの梶原社長から、今年10月プロバスケットボールチーム(CHIBA JETS)が千葉県に発足し、かつてウイスコンシン州大学で活躍した選手がヘッドコーチに就任すること、そして子供たちのスポーツを通じて千葉県とウイスコンシン州の橋渡しをしたい旨挨拶がありました。

その後、昼食を取りながらの歓談となり、各テーブルでは旧交を温めるなど楽しいひと時を過ごすことが出来ました。そして、昨年派遣団に参加した方からは、「ホームステイ先ではご飯とみそ汁の和食が出て、その心配り、心配りに感動した」、「初めて行ったのになつかしい人に会ったような気持ちだった」、「空港でお別れの時、わざわざのりのおにぎりを作ってきてくれた。しょっぱかったおにぎりの味が忘れられない」というちょっといい話を聞くことが出来ました。



歓談の様子

平成23年度理事会



5月16日(月)、京成ホテルミラマーレ(千葉市)で、平成23年度理事会が開催されました。

理事会には、理事12名、監事2名他が出席し、特別顧問である森田健作知事にも参加いただきました。

茂木友三郎会長からの挨拶の中で、「千葉ウイスコンシン協会は発足して7年目となるが、この間、理事や会員の皆さんの力添えにより千葉とウイスコンシン州との交流は活発化している」、「今回の大震災をウイスコンシン州の人々は心配しており知事夫人が中心となって日本を助けようという動きが始まった。大変ありがたい」と発言がありました。また、森田知事も、今回のウイスコンシン州からの大震災支援について触れ、「知事夫人のプロジェクトは大変うれしい。これも協会のまじめな活動を真摯に受け止めてくれたことによるもの」、「これからも千葉県とウイスコンシン州との一層の絆を深めたい」との挨拶がありました。

理事会では、22年度の事業報告及び収入・支出決算、23年度の事業計画(案)及び収入・支出予算(案)、理事の選任(案)について審議され、全て総会に付議されることになりました。

その後、千葉県とウイスコンシン州との交流状況について事務局から報告が行われ、意見交換では、若い人による交流の重要性などについて意見がありました。

平成23年度定期総会

6月4日（土）、プラザ菜の花（千葉市）において、平成23年度定期総会が開催され、40名の正会員が出席しました（委任状提出は68通）。

冒頭で、大石道夫副会長から、「東日本大震災の被災者の方々には心からお見舞い申し上げます。今度の震災では Wisconsin 州からも支援をさせていただいており、今後とも交友関係を大切にしていきたい」とのご挨拶がありました。続いて、佐久間豊副会長が議長となって、22年度の事業報告及び収入・支出決算、23年度の事業計画（案）及び収入・支出予算（案）、理事の選任（案）について審議が行われ、全て承認されました。



平成23年度事業計画

【事業方針】

前年度までの事業実績をもとに、さらに多くの方に Wisconsin 州の魅力を知っていただけるよう、各分野の事業内容のより一層の充実を図ってまいります。

【事業内容】

- 定例会の開催
 - 理事会、総会 各1回
 - 運営委員会 原則として毎月第二土曜日に開催
 - Wisconsin 州友好使節団の受入
 - 受入時期：平成23年9月24日（土）～10月1日（土）
 - 受入団員数：20名
 - 会員等交流事業の開催
 - 交流会
 - バスツアー等
 - CWAの活動及び Wisconsin 州に関する広報事業
 - CWA NEWSの発行（3回）とCWAホームページによる各種情報提供
 - 情報収集及び各種イベントへの参加
- ※ 総会后、Wisconsin-Chiba Inc.から1年間派遣を延期したいとの連絡があったので、その方向で対応したい。

平成23年度 収入・支出予算

1 収入の部

単位：千円

科目	23年度(A)	22年度(B)	A-B	備考
会費	690	740	△50	
補助金	1,330	1,400	△70	
県運営費補助	200	200	0	
県事業費補助	1,130	1,200	△70	
交流事業等参加費	450	2,230	△1,780	交流事業等参加費
繰越金	301	514	△213	
計	2,771	4,884	△2,113	

2 支出の部

単位：千円

科目	23年度(A)	22年度(B)	A-B	備考
運営費	250	280	△30	印刷費、消耗品費等
事業費	2,450	4,480	△2,030	
会議費	200	210	△10	理事会、総会
友好使節団派遣・受入事業	1,500	3,150	△1,650	友好使節団受入費用受入報告書
会員等交流事業	400	770	△370	交流会経費
広報事業	350	350	0	CWA NEWSの発行
予備費	71	124	△53	
計	2,771	4,884	△2,113	

平成23年度千葉Wisconsin協会の運営ボランティア

【運営スタッフ】

派遣・受入事業部会	会員等交流事業部会	広報部会	事務局
(アドバイザー) (事務局長) 林 和也 (委員長) 森山 茂男	阿部 照夫 小川 鉄次 フレッド・ラーワー 三橋さなえ 峯岸 喜子 山崎 重子	石井 崇子 (副委員長) 大原美保子 宮崎 忠夫 召田 充弘 山崎 静江	西織 哲大 小菅 健一

は部会長

【イベントスタッフ】

伊藤 尚志	中島 雅子
采元多美子	中村耕太郎
岡村 悦子	中村 順子
榊田 直美	
鈴木 美加	
富田 照子	

【編集後記】

本号では、大震災への Wisconsin 州からの支援について紹介しました。

今回の震災により、日本への風評等に絡む、今後の海外との交流に対する悪影響を心配する見方もあります。しかし、人的派遣や技術協力、義援金、励ましのメッセージなど、世界中から、被災地に限らず日本各地へ続々届けられるニュース等に触れるにつれ、我が国と海外とのさらに強固な信頼や新しい交流の可能性を感じます。

発行所：千葉Wisconsin協会

発行人：森山茂男 編集：広報部会

<http://www.chiba-wisconsin.jp/>

〒261-7114 千葉市美浜区中瀬2-6 WBGマリブイースト14階

(財) ちば国際コンベンションビューロー内

* 電話でのお問い合わせ ☎043-223-2394 (千葉県国際課)